

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 3月 1日

事業所名 きらり中庄(ひかり)

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	1	3	7	・体格が大きいと狭 い・プレイエリアの マットが狭い ・車椅子、バギーが あると ・車椅子等置くス ペースが欲しい ・活動により部屋を 移動したり、マットを 轆いたりして工夫は しているが狭いと感 じることは多々ある	・利用人数や放課後の時間帯によっては 室内が狭くなることが多い為、バギーを廊 下に置いたり不要な物品は整理したりしな がら環境を工夫しています。 ・新設のおうちだには車椅子置場を設置し ています。現状では、廊下のスペースで対 応させて頂いています。
	2	職員の配置数は適切である	3	2	6	・安全に利用するに は少ない ・放課後の利用児 が多い時に最大人 数の職員数がほし い	・配置基準は満たしておりますが、急遽当 日の対応、配置においてやむを得ない状 況も発生することもあります。協力体制 を図りながら支援にあたっています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化 の配慮が適切になされている	7	3	1		・発達障がいのお子さんに対応した設備は 年々改善を図っていますが、今後も安全で 過ごしやすい環境を目指します
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目 標設定と振り返り)に、広く職員が参画して 保護者等向け評価表を活用する等によりア ンケート調査を実施して保護者等の意向等 を把握し、業務改善につなげている	9	2	0		
	5	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	10	0	1	・すぐに保護者に フィードバックしにく いこともある	・毎年アンケートを実施し保護者の方から のご意向を検討しています。
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている	10	1	0		・公開していることを改めて職員に周知し ます
	7	職員の資質の向上を行うために、研修の機 会を確保している	11	0	0		
	8	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者 のニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	10	1	0	利用計画評価→原 案作成までに時間 がかかっている	・評価・原案作成、会議の開催、立案の計 画をスムーズに進めるよう児童発達支援 管理責任者が中心となって努めます
適切な 支援の 提供	9	子どもの適応行動の状況を把握するた めに、標準化されたアセスメントツールを使用 している	10	1	0		・共通のアセスメントツールを使用してい ますが知的、身体様々なお子さんがいる中 で必要なアセスメントは幅広いです。適切 なアセスメントが行われるよう努めていき ます
	10	活動プログラムの立案をチームで行って いる	9	2	0		・法人内の事業所で統一した支援・書式が できるよう情報共有を行っています
	11	活動プログラムが固定化しないよう工夫し ている	11	0	0		
	12	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ 細やかに設定して支援している	9	2	0		
	13	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活 動を適宜組み合わせ放課後等デイサービ ス計画を作成している	10	1	0	・新プラン作成ま でに時間がかかっ ているため児の様 子の変化が見られ ることがある	・評価・原案作成、会議の開催、立案の計 画をスムーズに進めるよう児童発達支援 管理責任者が中心となって努めます
	14	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われる支援の内容や役割分担に ついて確認している	10	1	0		
	15	支援終了後には、職員間で必ず打合せを し、その日行われた支援の振り返りを行い、 気付いた点等を共有している	8	3	0	・次の日に振り返 りを実施している為情 報共有しにくいこ とがある	・時差勤務で対応しており、全員でという形 が難しいこともあります。ケアコラボ等情 報共有のツールを工夫していきます。
	16	日々の支援に関して正しく記録をとるこ とを徹底し、支援の検証・改善につなげ ている	10	1	0		・記録するだけでなく、定期的に振り返 って検証・改善を行います
	17	定期的にモニタリングを行い、放課後等 サービス計画の見直しの必要性を判断し て	11	0	0		
	18	ガイドラインの総則の基本活動を複数組 み合わせて支援を行っている	10	1	0		・ガイドラインの内容も周知しながら、引 き続き支援の見直しを行います
	19	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最もふ さわしい者が参画している	11	0	0		

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	10	1	0	・基本的には学校との個別の連絡調整は保護者にさせていただきますが年間計画や急な変更等必要な対応を行っていきます
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	8	3	0	・医師の指示書を必ずいただき必要に応じて直接の確認等を行います
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	9	2	0	・移行される際に前所属先での情報が分かる書類等をいただく場合もあります。今後も必要なケースに対応していきます
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7	3	1	・学校を卒業した利用者がいない
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	4	0	・児童発達支援センターは互いに移行することもあり、建物も一緒なので助言を受けやすい。他機関はあまりない
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	6	1	4	・希望すれば参加出来る行事等を企画しているが日々の療育に取り入れていない ・コロナの影響がなければ外出の機会は増やしていきたい
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6	3	2	・コロナ禍のため思うようにできない場合がある ・把握できていない ・案内があれば管
保護者への説明責任等	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	11	0	0	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	11	0	0	・希望すれば参加出来るプログラムがある
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	11	0	0	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行う	11	0	0	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	10	1	0	父母の会、保護者会などはないが行事や見学週間を企画したり茶話会を企画したりして足を運んでもらう機会を作っている
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9	2	0	・通信で対応を周知している
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	11	0	0	
	35	個人情報に十分注意している	11	0	0	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	11	0	0	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	8	3	0	・行事は控えめに開催した、勉強会に地域の方(民生委員)や関係者を招いて来てもらった
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	10	1	0	
39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	11	0	0		

非常時等の対応	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10	1	0		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載して	11	0	0		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	11	0	0		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	11	0	0	・発生した事故等の記録はファイリングはしている。報告書を共有し職員会議でも確認している	・事業所内だけでなく倉敷拠点、法人内での事故発生についての情報共有、水平展開をしながら安心・安全を心がけ意識を高めていきます。

